

「容器包装の3R推進のための自主行動計画等の策定」と 「3R推進団体連絡会の結成」

容器包装に係るリサイクル八団体

ガラスびんリサイクル促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

はじめに

■容器包装の3R推進に向け、事業者としての役割をより深化させるために

容器包装リサイクル法（以下「容リ法」）が施行後10年を経過したことを受け、中央環境審議会ならびに産業構造審議会では、容器包装リサイクル制度の評価と見直しに向け、約1年半にわたる審議が行われ、最終の取りまとめがなされた。これを受け、容リ法改正案が3月10日に閣議決定され、国会に上程されたところである。

この間、(社)日本経済団体連合会（以下「経団連」）は、提言「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」（2005年10月）を取りまとめ、事業者は、容器包装の素材グループごとに「自主行動計画」を策定し、容器包装の3Rの推進に一層努力することの重要性を表明した。

これに基づき、容器包装に係るリサイクル八団体（以下「関係八団体」）は、同年12月、「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行い、事業者の決意をあらためて表明した。ここに、2004年度実績を基に2010年度を目標年次とした「Ⅰ. 事業者による3R推進に向けた自主行動計画」、及び「Ⅱ. 主体間の連携に資する取り組み」について、その概要を公表する。

もって環境負荷・社会コストの低減を図り、環境と経済の両立に資する所存である。

■「3R推進団体連絡会の結成」について

自主行動計画における容器包装の3R推進の目標、取り組み内容等は、基本的に素材ごとに関係団体が策定し、実行する。しかしながら、消費者への普及啓発や各種調査・研究事業等、共通するテーマも数多くあり、共同で取り組みを進めればより大きな効果が期待される。そこで、関係八団体では「3R推進団体連絡会」を結成し、相互に連携・調整を図りつつ、自主行動計画の推進・フォローアップを行うこととした。このような形で関係八団体が自主的に共同して取り組むのは初の試みである。

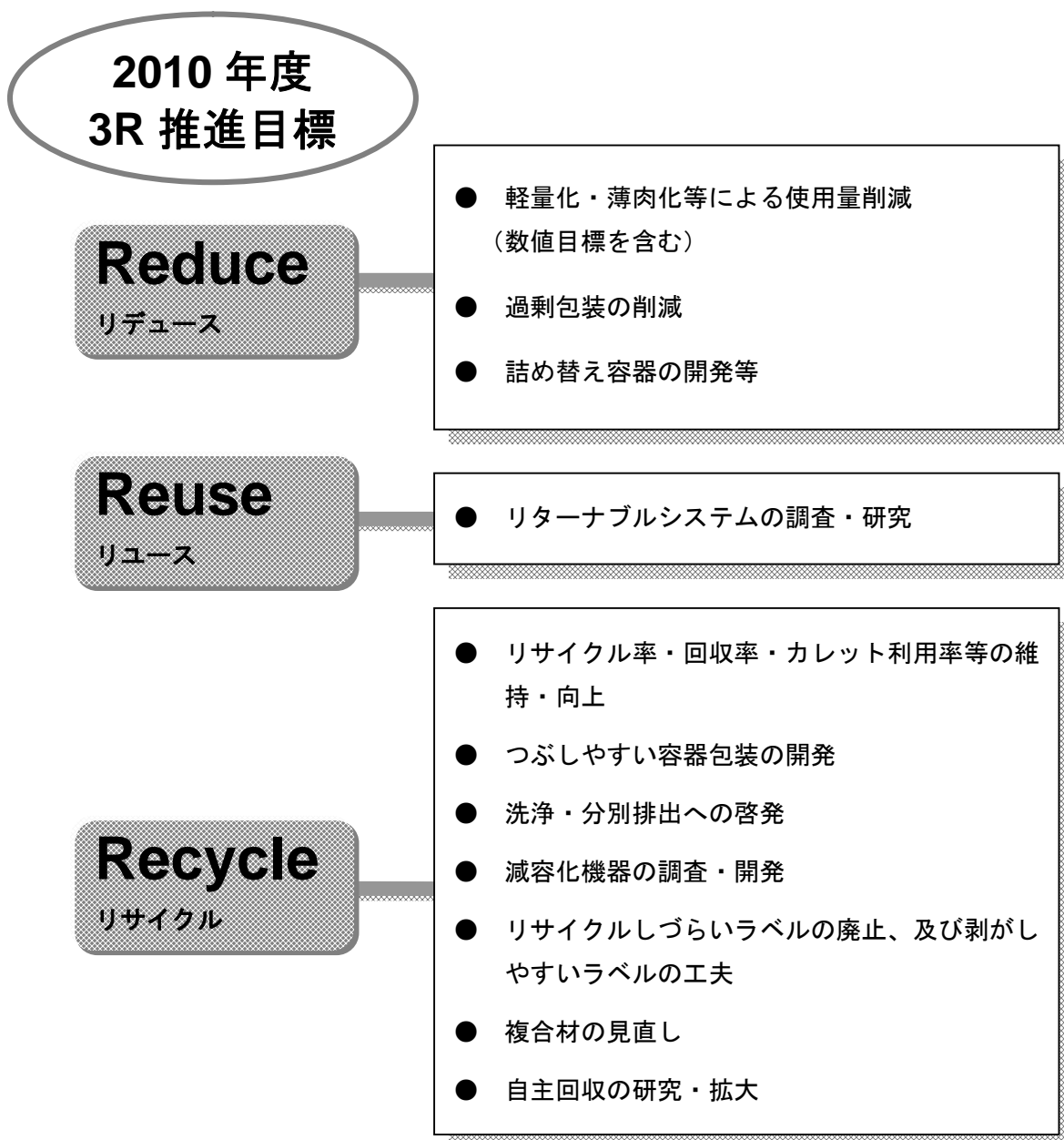
今後は、関係八団体及び加盟企業・団体が自主行動計画を実行する事はもとより、経団連の協力も得つつ、関係八団体に未加盟の容器包装利用事業者団体等にも協力を呼びかけていく方針である。

I. 事業者による3R推進に向けた自主行動計画

- 関係八団体ごとに、リデュース・リユース・リサイクルの取り組み目標・項目を設定します。
- 目標年次は2010年度とし、毎年フォローアップを実施します。

事業活動における容器包装の3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進については、2010年度を目標年次として、関係八団体ごとに数値目標・取り組み目標等を立てる。取り組みの結果は毎年度公表する。なお、数値目標に関する基準年は、2004年度とする。

- ◆計画の一覧 → 別表1参照
- ◆各団体の計画詳細 → 各団体の自主行動計画資料参照



Ⅱ. 主体間の連携に資する取り組み

■消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ、消費者・自治体・国等との連携に資する取り組みを展開します。

これまでも、関係八団体においては、さまざまな広報活動・調査研究事業を実施してきたところである。

◆各団体の広報・調査研究活動実績の一覧 → 別表2参照

今後、2010年度を目標年次として、市民（消費者）・自治体・国など各主体との連携に資するため、容器包装廃棄物の3R推進に向け下記項目を実施していく。

主体間の連携に資するための行動計画

関係八団体共同の 取り組み

容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のため、

- フォーラムの開催
- セミナーの開催
- 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、情報提供の拡充
- エコプロダクツ展への共同出展

各団体が行き組む 共通のテーマ

■情報提供・普及活動

- （各団体の既存の取り組みの活用も含む）
- ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加と協力
- ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成

■調査・研究

- ・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究会への協力
- ・分別収集効率化等のモデル実験への協力
- ・リターナブルびんのモデル実験の実施
- ・店頭回収・集団回収の高度化及び品質向上化等の研究会への協力
- ・消費者意識調査の実施

(参考) 容り法のこれまでの成果

容り法施行後、各主体の役割分担の下で大きく進展した容器包装の3R

事業者においては、これまで容器包装の薄肉化・軽量化や、詰め替え容器の開発、単一素材化によるリサイクル性の向上、リサイクルシステムの基盤作り等、3R 推進のためのさまざまな取り組みを展開してきたところである。

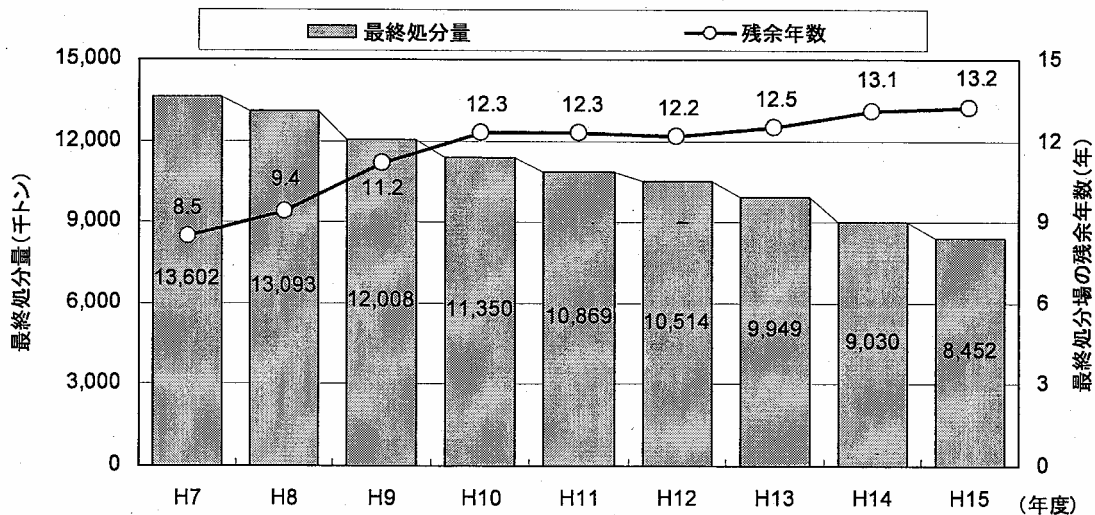
◆事業者による容器包装の軽量化等の取り組み事例

事業者	容器種類	重量削減 (削減率)
麒麟ビール	ビール大びん	605g → 475g (21%)
麒麟ビバレッジ	2Lペットボトル	63g → 42g (33%)
サントリー	500ml ペットボトル	32g → 23g (28%)
森永乳業	ビヒダスヨーグルト容器	21g → 16g (24%)
花王	ワイドハイター320ml ボトル	34g → 24g (29%)
エフピコ	食品トレイ	39g → 13g (66%)
王子ネピア	ふんわりスリム容器	箱高削減 (23%)

資料：産業構造審議会容器包装リサイクルWG

このように我が国の容器包装リサイクルは、消費者・自治体・事業者がそれぞれの役割を果たすことによって進展してきており、容り法の施行後、最終処分場の残余年数が延びる等、その成果は一層明確となっている。

◆一般廃棄物の最終処分量及び最終処分場の残余年数の推移



資料：環境省

別表1 事業活動における容器包装の3R推進に係る自主行動計画（目標年次：2010年度、容器包装別）

目標年次を2010年度とし、2006年4月から以下の取り組みを推進する。取り組みの結果は毎年度検証し、公表する。

項目	ガラスびん	ペットボトル	紙製容器包装	プラスチック製容器包装	スチール缶	アルミ缶	飲料用紙パック	段ボール
リデュース (軽量化・薄肉化等)	2004年対比で2010年に1本あたりの重量を1.5%軽量化する。 (参考実績) 1995～2004年で、既に7%の軽量化を実現している。	新たな技術開発等を行い、主な容器サイズ・用途毎に2004年度実績比で1本あたりの重量を3%軽量化する。 (参考実績) 2L耐熱ボトルと1.5L耐圧ボトルについて過去20年間でそれぞれ26%、35%の軽量化を実現している。また、500ml耐熱ボトルについては過去8年間で19%の軽量化を実現している。	実績を上げている各社の成果を波及させ、業界全体のレベルアップを図る。 ・包装の適正化を指導し、促進する。 ・軽量化、薄肉化の拡大を図る。 ・包装材の削減を図る。 2010年度までに2004年度実績比で2%削減する。	技術開発を継続し、2010年度までに2004年度実績比で排出量を3%削減する。 次の項目等を目標に業界毎に取り組む。 ・軽量化の推進 ・詰め替え容器の開発 ・包装の適正化促進 ・ラベル貼付品目の削減	新たな技術開発等を行い、2004年度実績比で2%軽量化する。 (参考実績) 過去、350g缶で63%、190g缶で20%の軽量化を実現している。	新たな技術開発等を行い、2004年度実績比で1%軽量化する。 (参考実績) 1985年～1994年で16.5%、1995年～2004年で1.2%の軽量化を実現している。	新たな技術開発等を行い、2004年度実績比で1%軽量化する。 (参考実績) 1987年～2002年の間で5%の軽量化を実現している。	個々の商品の物流条件に応じて設計されるが、事業者間の合理化努力により、1㎡あたりの重量を2004年度実績比で1%軽量化する。 (参考実績) 1990年(664.1g/㎡)～2004年(640.9g/㎡)で、3.5%の軽量化を実現している。
リユース	リターナブルシステムの調査研究を行う。	リターナブルシステムの調査研究を行う。						
リサイクル	エコロジーボトル(その他色カレット多量利用)の普及を図るなどして、カレット利用率91%を達成する。 ※カレット利用率＝カレット使用量÷ガラスびん生産量 (参考実績) 2004年度：90.7%	回収率75%以上を達成する。 ※回収率＝国内ペットボトル回収量÷ペットボトル用樹脂生産量 (参考実績) 2004年度：62.3%	雑紙としての回収の普及促進を図り、回収率20%（回収量20万トン）を達成する。 ※回収率＝国内紙製容器包装回収量÷家庭からの排出量（推定）	・回収率算出の分母とすべき数値（生産量又は家庭からの総排出量等）を初年度に調査・決定。 ・次年度よりその回収率を管理指標とする。 ※回収率＝市町村よりの引き取り実績量÷生産量又は総排出量（推定）	リサイクル率85%以上を維持する。 ※リサイクル率＝再資源化量÷消費重量（スチール缶：飲料用缶、一般缶等） (参考実績) 2004年：87.1%	リサイクル率85%以上を維持する。 ※リサイクル率＝再生利用重量÷消費重量（アルミ缶：飲料缶） (参考実績) 2004年：86.1%	回収率50%以上を達成する。 ※回収率＝国内紙パック回収量（産業損紙・古紙を含む）÷紙パック原紙使用量 (参考実績) 2004年度：35.5%	既存のリサイクル機構を活用し、回収率90%以上を維持する。 ※回収率＝（段ボール古紙製紙メーカー受入量＋同輸出入量）÷（段ボールメーカー原紙消費量＋製品輸入に付随する段ボール製品輸出に付随する段ボール） (参考実績) 2004年：93.6%
	つぶし易さ・汚れの付着しにくさ・洗い易さ	ラベル、キャップ等に関して易リサイクル性の向上を図る。	・つぶしやすい容器の開発を目指す。 ・つぶす機械の調査・開発・普及を目指す。 ・簡易洗浄して排出するよう啓発活動を継続する。	高度なリサイクルがしやすいように複合材の見直しを図る。	・つぶしやすさについては実績を上げている各社の成果を公開し、業界のレベルアップを図る。 ・減容化可能容器を開発する。 ・洗い易い形状の開発研究を継続する。	・陰圧缶は新たな技術開発を行ない、潰しやすさを目指す（缶胴壁厚が薄い陽圧缶は潰し易いが、それが厚い陰圧缶は潰し難い）。 ・再資源化する上で汚れは問題ないが、簡易洗浄して排出するよう普及啓発を継続する。	・アルミ缶は現につぶしやすいが、減容化を目的として、つぶして排出するための啓発活動を行う ・簡易洗浄して排出するよう啓発活動を継続する。	・「洗って、開き、乾かし」きれいなものだけを回収するルールの普及啓発活動を継続して行う。 ・1L紙パック商品に業界統一の環境メッセージ広告を掲載する「環境キャンペーン」を年間2回実施する。

項目		ガラスびん	ペットボトル	紙製容器包装	プラスチック製容器包装	スチール缶	アルミ缶	飲料用紙パック	段ボール
リサイクル	自主回収率、 集団回収率の 向上			アルミ付き飲料用紙パックについて自主回収やNPO等の活動を応援する。	その他プラの回収方法(混合収集)について調査する。	集団回収の調査・研究を実施し、自治体に協力し普及拡大を図る。	集団回収、店頭回収、事業者回収等自治体ルート以外の回収割合の50%以上を目指す。	「回収ボックス」拠点を10,000箇所に拡大する。(2001年から、自治体、市民団体、福祉作業所、学校、企業等に、回収ボックスを提供して回収拠点の拡大を促進している。)	
	(共通) 研究会等を立ち上げ、自主回収等の実情について調査・研究を推進する。								
	その他識別表示等の 推進	3Rを推進するための自主設計ガイドライン(ガラスびんの組成、質量、形状、ラベル、キャップ等に関する事項)を策定し、製造・利用事業者への周知・徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 2010年識別表示実施率95%以上を継続 自主設計ガイドラインに基づいて、環境配慮設計の容器を継続して開発する。 輸出量の把握 事業系回収量の把握 市町村独自処理量の把握 	識別表示について、製紙原料古紙としての適合品と製紙原料に適しないものとの区別がつくような表示を加える(自主的に)方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 分別基準適合物の品質向上を図る(容リ協会との連携) 再商品化に適した分別区分、表示を検討する。 	従前より実施してきている分別排出分別収集の推進・再資源化の推進・環境美化の推進など、ほか主体との協力連携を図りつつ、3R推進に向けた普及啓発活動の拡充を図る。	アルミ缶スクラップの海外輸出の実体把握を国、回収事業者等関係団体と連携しつつ、検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 識別表示実施率を98%以上維持する。(2000年5月に自主的に制定したリサイクル識別表示の実施率は、2003年に、生産ベースで98.7%に向上した。) 市民、自治体、関係事業者等が参加した「地域会議・リサイクル講習会」を年間5回以上開催する。(1998年度～2005年度に全国29地域で実施。) 地域独自の効率的な回収システムの構築及び普及拡大のプロジェクトを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 識別表示実施率90%を目指す。 容リ法の対象ではない商品の輸送・保管に利用される段ボールも含めて実施する。 国内で生産する段ボールは、事業者の受発注業務を通じて実施するとともに、ホームページ及び広報活動等による啓発を進める。 輸入品を梱包する段ボールは、ホームページ及び広報活動等による啓発に加えて、海外段ボール産業へ情報を提供して協力を依頼する。

別表2 (参考) 各団体の広報等の活動一覧

項目	ガラスびん	ペットボトル	紙製容器包装	プラスチック製容器包装	スチール缶	アルミ缶	飲料用紙パック	段ボール
1. ポスター類	<ul style="list-style-type: none"> ○「カレットからガラスびんへ」 ○「あきびんからカレットへ」 ○排出ルール「一緒にしないで」 ○「リサイクルの流れ」 	<ul style="list-style-type: none"> ○「PET ボトルは生まれ変わります」 ○「PET ボトルの分別排出と分別収集」(PET ボトルと混ぜないで他) ○「PET 再商品化の流れ」 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・「PET ボトルの運搬風景」 ・「PET ボトルのベール加工と保管」 ○ボトルタイプ排出方法啓発ポスター(スチール缶・アルミ缶・PET ボトル・環境省協同製作) 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙製容器包装リサイクルシステム図解パネル2種計7枚3セット貸し出し ○パンフレット(3千部常時用意) 	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会紹介用パンフレット ○展示会用パネル 	<ul style="list-style-type: none"> ○「鉄人28号」を起用したリサイクル啓発用ポスター(サイズ2種) <ul style="list-style-type: none"> *スチール缶リサイクルルートサイズ *スチール缶リサイクル工程図サイズ ○ボトルタイプ排出方法啓発ポスター(スチール缶・アルミ缶・PET ボトル・環境省協同製作) 	<ul style="list-style-type: none"> ○アルミ缶リサイクル啓発ポスター3種(CAN-TO-CAN、リサイクルフロー他) ○ボトルタイプ排出方法啓発ポスター(スチール缶・アルミ缶・PET ボトル・環境省協同製作) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポスター(回収ボックスとセットで配付) <ul style="list-style-type: none"> ・過去に数種を作成して学校、市町村等に送付 ○自治体向けの展示台、回収ボックス、リサイクル製品、ポスター、チラシ等をセットにしたメッセージBOXキットを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本製紙連合会:「古紙パンフレット(年1回更新)」
2. 広報誌ほか	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレット「ガラスびんリサイクル」 ○小学生向けパンフレット「ガラスびんの“3つのR”」 ○「びんのリサイクル通信」(年3回発行) ○チラシ「びんの排出ルール」 	<ul style="list-style-type: none"> ○年次報告書:1回/年発行(10月)3万部 ○広報誌RING誌:2回/年(10月、3月)3万部 ○再利用品カタログ1回/年3万部(10月) ○大好きPETボトル(小冊子):低学年用に発行、3万部 ○既存小冊子(「PET ボトルストーリー」などの活用) ○ニューズレター「容リ法見直しに関する意見(PET推進協)」の発行:官庁およびマスコミに対し3回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット(5千部常時用意) 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット「ひとりひとりがリサイクルの主役です」(訪問自治体、セミナー等で配布) 	<ul style="list-style-type: none"> ○スチール缶年次レポート年一回発行 ○広報誌「STEEL CAN AGE」年2回発行 ○「RECYCLE for TOMORROW」随時使用 ○「スチール缶リサイクルストーリー」随時使用 ○「鉄のちょっといい話」随時使用 ○クイズ「メビウス」随時使用 ○スチール缶リサイクル工程図 ○スチール缶リサイクルルート ○リサイクル啓発ビデオ「今日からはじめようスチール缶のリサイクル」 ○リサイクル啓発CD-ROM「クイズ感覚で学ぶスチール缶のリサイクル」 	<ul style="list-style-type: none"> ○アルミ缶リサイクル年次レポート(リサイクル率発表6月)。 ○広報誌「アルミ缶リサイクルニュース」年4回各3,000部発行 ○パンフレット「わたしたちにできるリサイクル」「アルミ缶がいちばん」「あれっ、すてちゃうの」(年間各30,000部発行) ○日本アルミ協会「循環型飲料缶・アルミ缶」 ○リサイクル啓発ビデオ「調べよう、考えよう、アルミ缶リサイクル」年間400本配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙パックリサイクル年次報告書(1回/年) ○牛乳容器ライブラリー(リサイクル啓発用)No.1~No.16 ○随時使用 <ul style="list-style-type: none"> ・各種チラシ随時使用 ・啓発用ビデオ 	<ul style="list-style-type: none"> ○段ボールリサイクル協議会:「段ボールのリサイクル推進シンボル運用ガイドライン」「リサイクル推進シンボル清刷」の発刊 ○(財)古紙再生促進センター:「紙リサイクルハンドブック(毎年刊行)」

項目	ガラスびん	ペットボトル	紙製容器包装	プラスチック製容器包装	スチール缶	アルミ缶	飲料用紙パック	段ボール
3. ノベルティー	○豆本「うまれかわった りさ」	○再生グッズの作成:10 品種程度(栓抜き、フ ァイル、ボールペン、 ネクタイ、スカーフな ど) ○各地リサイクルプラ ザ、展示会、小中学生 団体などに配布	○「紙製容器包装識別表 示マーク」配布、管理、 対応	○「プラ識別マーク」配 布、管理、対応	○啓発用「鉄人28号」 再生携帯ストラップ 随時使用 ○啓発キャンペーン用 マグネット ○啓発キャンペーン用 フェイスタオル ○啓発キャンペーン用 ティッシュ ○スチール缶回収袋	○マグネット ○貯金缶 ○アルミ缶回収袋	○ティッシュペーパー、 ○メモ帳 ○油とり紙	
4. ホームページ	○消費者のページ ○自治体のページ ○促進協のページ ○子供のページ「びんの リサイクル教室」 ○データ集ほか ※ガラスびんの3Rにつ いて訴求するため、18 年2月上旬に3Rに即 した構成に全面改訂	○広報誌(2. 参照に示 した)など ○最新情報:毎月、最新 情報を記載 ○容器包装リサイクル 法見直し関連情報 ○「PET ボトルリサイ クルの基礎知識」コ ーナー ○「PET ボトルリサイ クルをもっと詳しく」 コーナー ○「リサイクルマーク認 定商品」、識別マー クの説明 ○PET ボトルQ&A ○容器包装リサイク ル法見直し関連情 報 ○PET キッズ:「大好き PET ボトル」	○当協議会の概要 ○当協議会の年間活動 計画並びに活動状況 紹介 ○当協議会が行ってい る事業を随時掲載 ○3R 取り組み事例紹介 ○紙製容器包装の識別 マークを管理	○協議会概要 ○活動報告、活動計画紹 介 ○3R 取り組み事例紹介 ○子供のページ ○リサイクルメニュー ○協議会発信メッセ ージ	○毎月見直し及び最新 情報の提供 ○スチール缶に係る知 識の提供 ○スチール缶のリサイ クル情報提供 ○当協会の概況 ○著名人からのメッセ ージ ○スチール缶に係る Q&A ○缶詰○飲料缶の歴史 紹介 ○消費者意識調査結果	※アルミ缶リサイクル 協会ホームページ ○アルミ缶リサイクル 協会の事業内容 ○リサイクル活動 ○リサイクルデータ ○アルミ缶Q&A ※日本アルミ協会ホー ムページ ○アルミ缶の特徴 ○リサイクルの現状 ○CAN-TO-CAN リサ イクルのメリット ○アルミ缶リサイク ルの経済性 ○アルミ缶のLCA 等を紹介	○全国牛乳容器環境協 議会ホームページ ○小中学生向けホーム ページ「牛乳パッキン 探検隊」2005年4月 開設	○協議会の概要 ○段ボールの識別表示 ○会員名簿 ○刊行物 ○関連団体(ホームペ ージへのリンク)
5. 出展イベント	○エコプロダクツ展(ガ ラスびんの3Rにつ いて訴求)	○エコプロダクツ展 ○エコライフ・フェア ○暮らしとすまいの環 境フェスタ(名古屋) ○NEW 環境展	○エコライフ・フェア (平成16年度まで4 年間) ○エコプロダクツ展(平 成17年度) など	○エコライフ・フェア ○エコプロダクツ展 その他必要に応じて	○エコプロダクツ展 ○広島フードフェステ ィバル ○小樽缶アートフェス ティバル	○エコプロダクツ展 ○NEW 環境展 ○その他(京都市、鎌倉 市、小樽市、東京都港 区等、の自治体イベン トに参加)	○林野庁主催森林の市 ○エコプロダクツ展	○日本製紙連合会:「環 境講演会(年2~3 回開催)」 ○(財)古紙再生促進 センター:「リサイク ルペーパーフェア (年2回開催)」 「紙 リサイクルセミナー (年1回開催)」
6. 協賛イベント	○自治体向けリサイク ル展示キットの配布	○各地展示会など約50 箇所程度などに再生 グッズ配布、展示物の 貸し出し	○自治体、団体等へ展示 物貸し出し ○A-PACK 他	○各自治体、関係団体イ ベント等に参加又は 展示物貸し出し(年間 約10箇所)。	○2005年度:全国80団 体等に協賛(中央官 庁・地方自治体・環境 団体ほか)	○2005年度:全国363 地区のイベントに協 賛(企業、ボランティ ア団体、学校、自治体 他)	○自治体、団体等へ展示 物貸し出し。	

項目	ガラスびん	ペットボトル	紙製容器包装	プラスチック製容器包装	スチール缶	アルミ缶	飲料用紙パック	段ボール
7. 研究会	<ul style="list-style-type: none"> ○容器 LCC (ライフサイクルコスト) 研究会 ○南九州焼酎統一リユースびんモデル事業 ○カレット入りアスファルト舗装の研究・テスト施工 ○中身入り輸入びん実態調査 ○リサイクル施設見学研修会 (報道各社 20 名) ○自治体のあきびん品質の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビュー (対談形式) または連絡会: 年約 6 回 <ul style="list-style-type: none"> ・環境大臣、官庁担当課長 ・自治体関係者など ○新聞記者説明会: 年 2 回 ○意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> ・官庁との意見交換会 3 回/年 ・新聞記者・有識者との意見交換会 (少人数): 約 10 回/年 ○事業者・市民団体の開催の討論会など参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村環境セミナーでの講演受託 ○各地食品産業協会の「容リ法セミナー」講師受託 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村、環境関係団体の環境セミナー講師受託。 ○市町村訪問・意見交換 ○リサイクラー訪問・意見交換 ○関係省庁との意見交換会 (2 回/年) ○各地食品産業協会の「容リ法セミナー」講師受託 	<ul style="list-style-type: none"> ○まち美化シンポジウム ○容器包装リサイクル法見直し戦略プロジェクト ○廃棄物回収方法調査研究会 ○環境教育の一環としてのリサイクル普及啓発デザインコンクール ○協会活動の記者説明会 ○WFP (国際連合世界食糧計画) のスチール缶リサイクル量に応じた食料缶支援 ○主管官庁原課との意見交換—随時 ○その他 NPO 討論会等 	<ul style="list-style-type: none"> ○リサイクル施設見学研修会 (主管官庁原課、自治体、学者、ボランティア団体、報道各社が参加する研修会) ○アルミ缶 3R 研究会 (アルミ缶リサイクル協会と日本アルミニウム協会の合同研究会) ○アルミ缶委員会 (日本アルミ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会 (2000 年より実施、関係省庁、自治体、市民団体、関係事業者、関係団体) ○牛乳パックリサイクル促進地域会議 (1998 年より実施、自治体、市民団体、事業者) ○牛乳パックリサイクル講習会 (2004 年より実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ○製紙原料として使用困難な段ボールの分別の研究
8. 環境関係調査研究レポート		<ul style="list-style-type: none"> ○自治体回収状況調査 (約 20 自治体) とその結果説明 ○事業系回収量の調査 (再商品化業者へのアンケート約 340 社) ○PET ボトル中国実態調査報告 ○PET ボトル欧州状況調査報告 ○PET ボトル韓国状況報告 ○その他 	<ul style="list-style-type: none"> ○調査報告書 (5 ヶ年) <ul style="list-style-type: none"> ・技術委員会報告書: 紙製容器包装分別収集物の組成分析調査 (名古屋市等) ・総務委員会報告書: 紙製容器包装収集実態についてヒアリング調査 ○欧州 (ドイツ、フランス、スペイン) 容器包装リサイクル視察調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治体現地訪問実態調査報告 ○リサイクラー現地訪問調査報告 ○海外 (フランス、スペイン) 視察調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○海外調査報告 ○自治体分別排出・分別収集状況調査報告 ○鉄鋼メーカー回収状況調査報告 ○スクラップ価格動向調査報告 ○スチール缶リサイクルマニュアル (資源化施設の計画と技術) 調査・発刊 ○スチール缶リサイクルマニュアル (分別排出と分別収集の方法と技術) 調査・発刊 ○まち美化ハンドブック発刊 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国自治体におけるアルミ缶スクラップ売却価格の調査報告 (平成 18 年 1 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査 (マテリアルフロー、回収率他) ○LCI 調査 (海外製紙メーカー含む) ○海外視察調査 (EU、北米) ○紙パック回収問屋調査 ○福祉作業所・市民団体回収調査 ○環境キャンペーン消費者意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○段ボールリサイクル協議会: 「家庭から排出される段ボールの調査」 ○全国段ボール工業組合連合会: 「海外段ボール産業の 3 R 活動の調査・研究」
9. 環境関連加盟団体	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物学会 ○(財) クリーン・ジャパン・センター (環境学習の工場見学受入) 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物学会 ○3R 活動推進フォーラム ○(財) クリーン・ジャパン・センター 	<ul style="list-style-type: none"> ○3R 活動推進フォーラム ○食品産業センター傘下各食品産業協会 (セミナー講師受託等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物学会 ○3R 活動推進フォーラム ○食品産業センター傘下各食品産業協会 (セミナー講師受託等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物学会 ○地方自治体、環境団体等の審議会 (北海道、神奈川県、千葉県、京都市、福岡市、舟橋市、六甲山美化協力会、かながわ海岸美化財団等) ○その他 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物学会 ○3R 活動推進フォーラム ○(財) クリーン・ジャパン・センター ○京都市町の美化推進事業団他、鎌倉市、横浜市の環境団体 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 ○3R 活動推進フォーラム ○(財) クリーン・ジャパン・センター 	<ul style="list-style-type: none"> ○3R 活動推進フォーラム

項目	ガラスびん	ペットボトル	紙製容器包装	プラスチック製容器包装	スチール缶	アルミ缶	飲料用紙パック	段ボール
10. 主な資料送付先	○中央官庁、都道府県、市町村、NPO、関連事業者、関連団体	○中央官庁（環境・経産・農水、財務省、厚生省）、 ○都道府県、全国の区市町村、広域組合、 ○学者、NPO など団体、関連事業者、関連団体 ○新聞記者などマスコミ関係者、有識者	○中央官庁（環境・経産・農水）、都道府県、全国区市、広域組合、学者、NPO など団体、関連事業者、関連団体。	○中央官庁、市町村 ○セミナー受講者 ○その他必要に応じて	○中央官庁（環境・経産・農水） ○都道府県、全国区市、広域組合、 ○学者、NPO 有識者など ○団体関連、事業者 ○マスコミ	○中央官庁（経産、環境）、及び全国の自治体、ボランティア団体、回収拠点、マスコミ等に配布	○中央官庁（農水、経産、環境、国税、文部科学） ○市町村、学校、団体、関係事業者、学者、NPO	○自治体、紙の博物館
11. その他		○キャンペーン用ブレザー及びズボン作成 ○自治体会議等への参画(パネラーとして)	○3R 活動推進フォーラムメンバーとして活動。	○廃棄物学会パネラーとして参画 ○容リ法セミナー講師	○キャンペーン用 T シャツ作成 ○キャンペーン用ジャンパー作成 ○自治体清掃活動支援 ○自治体廃棄物会議等への参画（顧問・委員など）	○マスコミ記者会見＝アルミ缶需要量調査（2月） ○リサイクル率発表（6月） ○表彰制度 ・アルミ缶回収優秀小中学校表彰 ・アルミ缶リサイクル功労者一般表彰 ・優秀回収拠点表彰 ・3R 功労者表彰 ・（表彰式には自治体、報道機関を招いている） ○訪問学習の受け入れ：中、高生の訪問学習の受け入れ（年間50～60校）	○環境キャンペーン実施（紙パック商品にリサイクル啓発広告掲載）2回/年実施	○日本製紙連合会の雑誌広告